

ホストタウン・事前合宿

ホストタウンの取組

- P58** 「ホストタウン」とは
「復興ありがとうホストタウン」とは
「共生社会ホストタウン」とは
事前合宿の新型コロナウイルス対策
宮城県のホストタウン一覧
- P59** 宮城県のホストタウンMAP
- P60** 仙台市×イタリア
- P62** 石巻市×チュニジア
- P64** 白石市・柴田町×ベラルーシ
- P66** 登米市×ポーランド
- P68** 加美町×チリ
- P70** 仙台市・多賀城市×キューバ／蔵王町×パラオ
- P71** 丸森町×ザンビア／気仙沼市×インドネシア
- P72** 名取市×カナダ／岩沼市×南アフリカ
- P73** 東松島市×デンマーク／亘理町×イスラエル





ホストタウンの取組

「ホストタウン」とは

「ホストタウン」は、国内の自治体と「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に参加する国・地域が、スポーツ、文化、経済などの多様な分野で交流することを通じて地域の活性化等に活かし、東京2020大会を

超えた末永い交流を実現することを目的とした取組。宮城県では7市町が登録され、大会前後を通じて相手国との様々な交流が図られました。

「復興ありがとうホストタウン」とは

「復興ありがとうホストタウン」は、東日本大震災から復興した姿を見せつつ、これまでの支援への感謝を伝えるために、支援をしてくださった相手国・地域の方々や大会関係者

との交流を行う自治体の取組。宮城県では8市町が登録され、支援に対する感謝を様々なかたちの交流を通じて伝えました。

「共生社会ホストタウン」とは

「共生社会ホストタウン」とは、パラリンピアンを受け入れを契機に、特色のある総合的なユニバーサルデザインの街づくり、及び心のバリアフリーの取組を実施し、大会以降も

共生社会の実現を目指す自治体の取組。宮城県では3市町が登録され、共生社会の実現に取組むきっかけとなりました。

事前合宿の新型コロナウイルス対策

事前合宿を受け入れるにあたり、各ホストタウンは事前に受け入れマニュアルを作成し、空港から各ホストタウンの移動や宿泊施設と練習会場の往復などで関係者以外に接

触することがないように対策を行いました。また、選手・スタッフは毎日PCR検査を行い、陰性を確認しながら合宿を行いました。

宮城県のホストタウン一覧

市町村	交流相手国	ホストタウン	復興ありがとうホストタウン	共生社会ホストタウン	事前合宿 〈令和3年(2021年)実施〉
仙台市	イタリア	●	●	●	(オリンピック)ソフトボール(パラリンピック)水泳、車いすフェンシング、陸上、シッティングバレーボール
仙台市・多賀城市	キューバ	●			
石巻市	チュニジア		●		(オリンピック)ウエイトリフティング
気仙沼市	インドネシア		●		
白石市・柴田町	ベラルーシ	●			(オリンピック)新体操
名取市	カナダ		●		
岩沼市	南アフリカ		●		
登米市	ポーランド	●		●	(オリンピック)ボート(パラリンピック)ボート
東松島市	デンマーク		●		
蔵王町	パラオ	●			
丸森町	ザンビア	●			
亘理町	イスラエル		●		
加美町	チリ		●	●	(パラリンピック)カヌー・陸上
計		7市町	8市町	3市町	6市町

宮城県の ホストタウン MAP



事前合宿<令和3年(2021年)実施>

市町村	区分	受入国	競技名	受入日程		受入人数			練習会場	宿泊施設
				開始日	終了日	選手	スタッフ	計		
仙台市	オリンピック	イタリア	ソフトボール	7月10日	7月20日	15	10	25	シェルコムせんだい・仙台市民球場	非公表
	パラリンピック	イタリア	水泳	8月12日	8月21日	28	13	41	宮城県総合プール	
	パラリンピック	イタリア	車いすフェンシング	8月12日	8月21日	8	16	24	宮城野体育館	
	パラリンピック	イタリア	陸上競技	8月19日	8月26日	9	9	18	仙台市陸上競技場	
	パラリンピック	イタリア	シッティングバレーボール	8月14日	8月21日	12	6	18	宮城野体育館	
石巻市	オリンピック	チュニジア	ウエイトリフティング	7月11日	7月22日	5	4	9	石巻トレーニングセンター	石巻グランドホテル
白石市	オリンピック	ベラルーシ	新体操	7月26日	8月2日	7	6	13	ホワイトキューブ	非公表
柴田町										
登米市	オリンピック	ポーランド	ボート	7月7日	7月19日	22	13	35	長沼ボート場	ホテルサンシャイン佐沼ほか
	パラリンピック	ポーランド	ボート	8月14日	8月20日	2	2	4	長沼ボート場	長沼ボート場クラブハウス
加美町	パラリンピック	チリ	カヌー(スプリント)	8月8日	8月27日	1	2	3	鳴瀬川カヌーレーシング競技場	やくらいコテージ
	パラリンピック	チリ	陸上競技	8月8日	8月21日	3	6	9	陶芸の里スポーツ公園陸上競技場	
合計						112	87	199		

事後交流

市町村	区分	受入国	競技名	受入日程		受入人数			交流会場	宿泊施設
				開始日	終了日	選手	スタッフ	計		
白石市	オリンピック	ベラルーシ	新体操	8月9日	8月12日	7	6	13	ホワイトキューブ	非公表
柴田町									仙台大学	
合計						7	6	13		

ホストタウンの取組

仙台市 × イタリア

種別

ホストタウン・復興ありがとうホストタウン・共生社会ホストタウン

交流対象国

イタリア

事前合宿

〈オリンピック〉ソフトボール

〈パラリンピック〉水泳、車いすフェンシング、陸上、シッティングバレーボール

ホストタウン登録の経緯

慶長18年(1613年)、初代仙台藩主伊達政宗が通商交渉を目的に家臣の支倉常長らをヨーロッパへ派遣しました。常長を大使とした慶長遣欧使節はイタリアを訪れ、ローマ教皇パウロ5世に拝謁し、ローマ市議会からは公民権を与えられました。また、平成14年(2002年)のサッカーFIFAワールドカップの際にはイタリア代表の事前合宿が仙台市内で行われ、市民スポーツボランティアの活性化等といったレガシーが受け継がれていま

す。平成23年(2011年)の東日本大震災の際にはイタリアから温かい支援が寄せられ、多くの市民が励まされました。このような歴史的な友好関係を礎に、震災時の支援に対する感謝を伝えるため、また、共に共生社会の実現を目指すため、イタリアのホストタウン、復興ありがとうホストタウン、共生社会ホストタウンに登録されました。

受け入れ準備について

平成28年(2016年)1月のホストタウン登録以降、イタリア文化に親しむイベントの開催や、青少年スポーツチームの相互派遣、代表合宿の受け入れなど、様々な交流事業を行ってきました。

交流を通じてイタリアとの友好を深めるとともに、震災遺構の紹介等を併せて行い、復興支援への感謝の気持ちを伝えました。

パラリンピック事前合宿の受け入れに向けては、パラスポーツ

体験会の開催等による市民の障害理解促進や、施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインタクシーの導入促進補助など、ソフト・ハード両面での環境整備を進めました。

令和2年(2020年)には、仙台市イタリア応援プロジェクト「Amo ITALIA!」を立ち上げ、市民とともに応援やおもてなしの企画を考えました。

事前合宿・交流

オリンピックのソフトボール25名、パラリンピックの水泳、車いすフェンシング、陸上、シッティングバレーボールの4競技計101名の事前合宿を受け入れました。合宿期間中には、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、オンラインによる交流会や

ソフトボール壮行試合、パラリンピック各競技の公開練習、子どもたちによるお見送りなどの機会をつくり、市民の応援の気持ちを届けました。

事前合宿の様子(オリンピック:ソフトボール)

実業団チームとの壮行試合は県内在住の約330人が観戦。試合後はソフトボール部に所属する中学生との質疑応答やAmo ITALIA! 参加メンバーからの記念品贈呈を行いました



事前合宿の様子(パラリンピック:4競技)

競技ごとに公開練習の日を設け、市民との質疑応答等を行いました



様々な交流事業



小学校では、イタリア料理の給食提供や応援動画の作成を行いました



同じイタリアのホストタウンとなっている岡山県矢掛町と連携し、選手とのオンライン対談や共同応援を実施しました



選手村に出立する際や宿泊先～練習会場の経路では、近隣の小学生や園児たちが沿道からエールを送りました



ホストタウンの取組

石巻市 × チュニジア

種別 復興ありがとうホストタウン

交流対象国 チュニジア

事前合宿 〈オリンピック〉水泳(2020年)、ウェイトリフティング(2021年)

ホストタウン登録の経緯

石巻市とチュニジアとの交流は、東北大学に留学していたチュニジア人が、平成4年(1992年)に旧桃生町へホームステイに訪れたことをきっかけとして始まりました。

平成の市町村合併後は、石巻市が交流を引き継ぎ、桃生地区に新設した市の総合支所庁舎兼公民館の落成式に在日チュニジア大使館関係者を招待するなど親睦を深めてきました。

震災発生の1カ月後には、在日チュニジア大使館の職員等の

方々が石巻市を訪れ、炊き出しでチュニジア料理を振る舞っていただいたほか、生鮮商品などの物資を支援いただきました。

石巻市は、これまでの復興支援への感謝を表するとともに、今後の交流を推進するため、チュニジアを相手国として「復興ありがとうホストタウン」の登録申請を行い、平成30年(2018年)4月に登録されました。

受け入れ準備について

復興ありがとうホストタウンの登録後には、東京2020大会に向けた交流事業及び事前合宿誘致を進めるため、石巻市の職員らがチュニジアへ渡航し、オリンピック委員会やパラリンピック委員会等と協議を行いました。

渡航した成果もあり、同国よりオリンピック委員会やパラリンピック委員会等が石巻市を訪れ、交流事業や市内スポーツ施設

等の視察を行い、事前合宿につなげることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限がありました。在日チュニジア大使館をはじめ、地元の方々等の協力をいただき、練習会場や宿泊施設、輸送車両の確保など万全な体制で受け入れ準備を進めることができました。

事前合宿・交流

令和2年(2020年)1月から2月にかけて、東京2020オリンピック競技大会競泳男子400m自由形で金メダルを獲得したハフナウイ選手の事前合宿を受け入れました。

合宿期間中には、市内の水泳教室の子どもたちや小学校との交流を行ったほか、市内を観光し、楽しんでいただきました。

令和3年(2021年)7月には、ウェイトリフティング選手団の事前合宿を受け入れました。

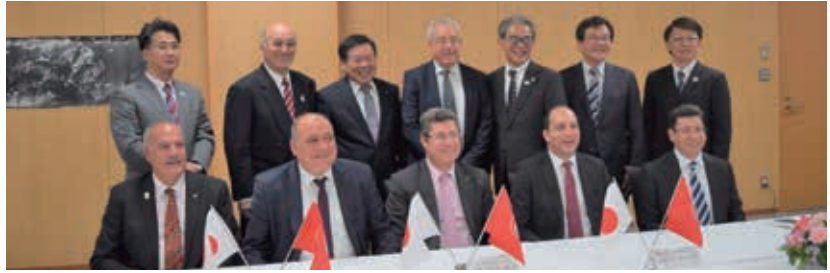
新型コロナウイルス感染症対策のため、思っていたような地元住民との交流はできませんでしたが、練習見学会を実施した際には、地元のウェイトリフティング部の高校生が選手からアドバイスを受けるなど交流を深めました。

また、選手団のために開催した歓迎会では、記念品として贈った「石巻こけし」等に変えていただきました。

事前交流



2018年にチュニジアへ訪問。チュニジアオリンピック委員会との意見交換会



2018年来石したチュニジアオリンピック委員会・在日チュニジア大使館と市内スポーツ団体との意見交換会



2018年来石したチュニジアの剣道男子団体代表チーム



チュニジア通りに建つディアナのモザイク画



2019年のスポーツ施設等視察期間中に小学校にオリーブの木を植樹するチュニジアパラリンピック委員会会長・在日チュニジア大使館職員

2020年:事前合宿の様子(水泳)

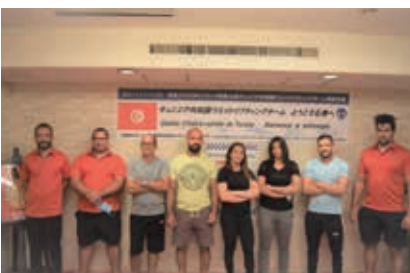


2020年にはチュニジア水泳選手団が約2週間の事前合宿を実施。滞在中は地元の小学生との交流も行われました



2021年:事前合宿の様子(ウェイトリフティング)

7月11日から22日までの12日間にわたり、石巻トレーニングセンターを拠点に練習を行ったチュニジアのウェイトリフティングチーム



ホストタウンの取組

白石市・柴田町 × ベラルーシ

種別	ホストタウン
交流対象国	ベラルーシ
事前合宿	〈オリンピック〉新体操

ホストタウン登録の経緯

白石市・柴田町・仙台大学は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、観光、国際交流、スポーツ、教育等の振興により、地域の活性化と交流人口の拡大を図ることを目的に「白石市・柴田町・仙台大学東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会」を設立し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿招致活動を推進してきました。白石市では、「白石市文化体育活動センター(ホワイトキューブ)」

開館以降、新体操教室の開講など新体操競技に注力してきました。また、柴田町にある仙台大学では、平成14年(2002年)からベラルーシ国立体育・スポーツ学院と国際交流協定を締結し、新体操を通じた人的交流を行っており、友好関係を築いていました。これらを踏まえ、ベラルーシ新体操ナショナルチームのホストタウンとして登録することになりました。

受け入れ準備について

世界的流行を見せていた新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度実施した事前合宿においても感染症対策の徹底が必要となりました。そのため、国から示された指針に基づいた受け入れマニュアルを作成し、専門家にアドバイスをいただきながら、実際に想定される事項まで入念に確認を行いました。事前合宿期間中は受け入れマニュアルに基づき、感染症対策を講

じた中でもチームを応援できる方法として、距離を取って限定的に練習を見学できる計画を立て、当協議会オリジナルのマスクや手旗を作成し、練習見学会当日に参加した方々へ配付することで、新型コロナウイルス感染症対策により交流が制限されている中でも、チームへエールを送る体制を整えました。

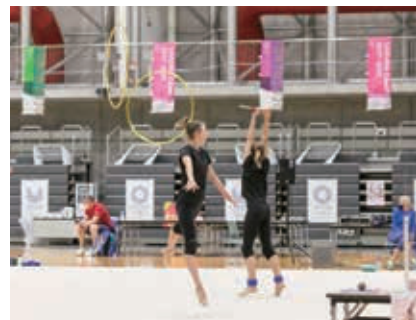
事前合宿・交流

事前合宿期間中、チームの歓迎式をホワイトキューブ及び関係市町をオンラインで繋いで開催しました。また、オリンピック・パラリンピック教育推進校である白石第一小学校の児童や仙台大学新体操部の学生等を対象に、練習見学会を行いました。大会終了後の事後交流では、ホストタウンである白石市、柴田町(仙台大学)にて凱旋報告会を実施しました。その際、個人種目

にて銅メダルを獲得したアリーナ・ガルナシコ選手から報告会へ参加した児童や関係者等にメダルが披露されました。その後、チームは日本舞踊の体験や白石市の特産品であるこけしの絵付け体験を通して、日本の伝統文化や歴史に触れました。

事前合宿の様子

新型コロナウイルス感染防止対策のため、当初、白石市・柴田町の双方で開催予定だった合宿予定を、白石市に集約。ベラレーン新体操チームはホワイトキューブを練習会場に、7月26日から8月2日までの8日間にわたり事前キャンプを行いました。



練習見学会の様子

7月28日、29日の2日間に分け、白石第一小学校の児童や仙台大学新体操部の学生等を対象とした練習見学会を行いました。感染防止対策のため、2階(キャットウォーク)からの見学となりましたが、オリンピック選手を間近で感じることができ、とても有意義な時間となりました。



凱旋報告会の様子

オリンピック終了後、ベラレーン新体操チームは白石市・柴田町を訪問し、凱旋報告会を行いました。見事メダルを獲得したアリーナ・ガルナシコ選手(個人)からは報告会に参加した関係者等にメダルの披露をしました。



事後交流の様子

ベラレーン新体操チームはこけしの絵付け体験や日本舞踊体験、御釜見学等を通して、日本の文化や歴史に触れました。



ホストタウンの取組

登米市 × ポーランド

種別	ホストタウン・共生社会ホストタウン
交流対象国	ポーランド
事前合宿	〈オリンピック・パラリンピック〉ボート

ホストタウン登録の経緯

登米市では、未来を担う子どもたちが豊かな感性や創造力を養い、生きる力を育み、心と体が健やかに成長できる子育てと学びの環境づくりを目指しています。その具現化として、すべての市民が生涯を通じて自ら学び続けられるように、生涯学習活動やスポーツ活動への支援の充実を図り、また、国際交流や地域間交流の推進により、地域や次世代を担う人材が育つ環境づくりを

目指しています。このような方向性に向けた施策として、東京2020大会ボート競技会場候補地として脚光を浴びた長沼ボート場の優れた地域資源を活用し、本大会の気運醸成やポーランドボートチームの事前合宿支援を通じて、ポーランドとの友好的な交流を創出し、本市のプロモーションやグローバル化などを目的に登録を行いました。

受け入れ準備について

東京2020大会に出場するポーランドボートチームが持てる力を十分に発揮できるよう、開催気運を高めながら、練習会場等において、選手等と市民の動線間隔を確保するなど、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、事前合宿受入の準備を行いました。また、市内小中学校及び高等学校において、オンラインによる「ポーランドについて学ぼう」をはじめ、市内ショッピングセン

ターでの「ポーランド&ボート展示会」を開催し、オリンピックの理念とポーランドの歴史や文化の理解を深め、応援意識の高揚に努めるとともに、共生社会の実現を目指すパラアスリートによるオンライン授業を通じて、スポーツによる夢や目標を持つことの大切さを育みながら受入の準備を進めました。

事前合宿・交流

令和3年(2021年)7月9日から19日にかけて、オリンピック22人、スタッフ13人の計35人が来市し、10日には歓迎式、13日は市内小学校児童とのオンライン交流を行い、幼児や児童から応援メッセージをしたためた「手作り金メダル」が贈呈されました。終始フレンドリーな雰囲気の中で滞在され、19日の壮行式では、選手らは東京2020大会での活躍を約束しました。

8月14日から20日にかけては、パラリンピアン2人、スタッフ2人の計4人が来市し、16日に歓迎式及び市内中学校生徒とオンライン交流を行い、生徒から応援色紙が贈呈されました。家族で過ごすような雰囲気の中で滞在され、20日の壮行式では、涙ながらに送り出すことができるなど、オリパラそれぞれの事前合宿を契機とした今後の友好を誓いました。

事前合宿の様子(オリンピック:ボート)



オリンピックチーム歓迎式



オリンピックチームとのオンライン交流会(北方小学校)



小学生から贈られた「手作り金メダル」に感謝するオリンピック



筋骨隆々な選手



「がんばれ!ポーランド!」



園児から贈られた「手作りコマメダル」と「応援ボード」に感謝する選手のみなさん



オリンピックチーム壮行式



チームから贈呈された感謝を伝えるサインとユニフォーム



銀メダルを獲得した女子クォドルプルチーム

事前合宿の様子(パラリンピック:ボート)



パラリンピックチーム歓迎式



中学生から贈られた「応援色紙」に感謝するパラリンピックチーム



パラリンピックチームとのオンライン交流会(佐沼中学校ボート部)



笑顔の混合ダブルス カル選手とコーチ



「がんばれ!パラリンピックチーム!」



パラリンピックチーム壮行式

ホストタウンの取組

加美町 × チリ

種 別 復興ありがとうホストタウン・共生社会ホストタウン

交流対象国 チリ

事前合宿 〈パラリンピック〉カヌー、陸上

ホストタウン登録の経緯

加美町は東日本大震災で被災した南三陸町の住民を受け入れ、以来、両町民の交流が促進されました。一方、南三陸町は、昭和35年(1960年)のチリ地震津波以来、チリとの友好関係を結んでいます。平成25年(2013年)にはイースター島で創られたモアイ像が南三陸に贈呈されました。こうしたチリからの支援に対し感謝の意を表すため、震災当時から南三陸町と交流を続

ける加美町が主体となり、「復興ありがとうホストタウン」に登録され、チリパラ選手団の合宿地となりました。

また、加美町は東京2020パラリンピック大会におけるチリとの交流を通じて、誰もが住みやすい町「人にやさしい街づくり」を目指し、「共生社会ホストタウン」にも登録されました。

受け入れ準備について

「復興ありがとうホストタウン」に登録されてから、加美町は町民の皆様にはチリの文化を知ってもらうために、様々なイベントを開催し、チリとの友好関係を深めてきました。

加美町ではチリ選手団の受け入れに合わせ、宿泊施設のコ

テージや練習施設の「中新田B&G海洋センター」などの施設のバリアフリー化改修を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策として「受入マニュアル」を作成し、安心して合宿を行えるようにしました。

事前合宿・交流

チリとの交流は平成31年(2019年)から始まり、2月にはチリパラリンピック委員会の代表とカヌー選手団が来町し、協定を締結しました。同年9月にパラカヌー選手団が加美町で2週間の事前合宿を行い、町内の小学生との交流会や南三陸町を訪問しました。令和2年(2020年)2月には、音楽の面から交流を図るため、「チリ青少年オーケストラ財団(FOJI)」が来町しました。

令和3年(2021年)2月に、チリのパラカヌー選手と加美町と南

三陸町の高校生がオンライン交流会を行いました。また、6月、7月には、同じくチリのホストタウンである三鷹市と連携し、オンラインによる、スペイン語講座や中学生との交流会、さらには共同応援イベントを行いました。8月8日～27日までは、チリパラ陸上とカヌー選手団が東京大会に向けて加美町で直前合宿を行いました。

事前交流



チリとの事前合宿に関する調印式(2019年)



チリ青少年オーケストラ財団が来町(2020年)



チリ・加美町・三鷹市を結んで行われたオンライン交流会(宮崎中学校)



チリ・加美町・南三陸町を結んで行われたオンライン交流会の様子(中新田高校カヌー部)

事前合宿の様子(パラリンピック:カヌー・陸上)



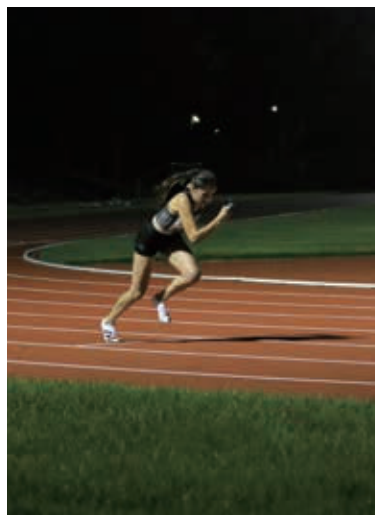
チリパラリンピック陸上・カヌー直前合宿に訪れた選手・スタッフのみなさん



パラリンピック女子カヌースプリント(KL1)
カテリン・ウォラマン選手



パラリンピック陸上男子1,500m(T11)
クリスチャン・バレンスエラ選手



パラリンピック陸上女子200m・400m(T47)
アマンダ・セルナ選手



パラリンピック陸上女子砲丸投げ(F54)
フランシスカ・マルドネス選手

ホストタウンの取組

仙台市・多賀城市 × キューバ

キューバと仙台市は、慶長遣欧使節のハバナ寄港に始まる歴史的な縁があり、仙台市・多賀城市に所在する仙台育英学園高校では、キューバの姉妹校に生徒を派遣するなどの交流事業を行っています。また、仙台育英学園高校では2000年シドニーオリンピックの際に野球キューバ代表の事前合宿を受け入れた実績があります。これらのつながりから、仙台市、多賀城市、仙台育英学園が連携し、野球とバレーボールの事前合宿を受け入れることについて、キューバスポーツ体育レクリエーション庁と覚書を締結しました。平成31

年(2019年)度には、東京2020大会開催に向けた気運とキューバを応援する気運を醸成するため、バレーボール元キューバ代表のミレーヤ・ルイス氏を招き、仙台育英学園高校での講演会や地元中高生向けの競技指導会を実施しました。また、震災遺構仙台市立荒浜小学校を案内し、震災からの復興の歩みを紹介しました。

※予定していた競技が予選で敗退したため、事前合宿の受け入れはありませんでした。



バレーボールでキューバの黄金時代を支えたスーパーエース、ミレーヤ・ルイス氏を囲んで



仙台育英学園高校宮城野校舎ではルイス氏の講演会も開かれました



仙台育英学園高校多賀城校舎を会場に競技指導会が行われました

ホストタウンの取組

蔵王町 × パラオ

パラオとは、第一次世界大戦後、国際連盟により日本が委託統治を受けて以来、多数の日本人が移住し歴史的にも深い関係がありました。第二次世界大戦の終戦後には、南洋パラオ島で暮らしていた方々やその子孫が蔵王町内の遠刈田温泉「北原尾地区」に開墾入植。北原尾地区は入植当時、地名もないところでしたが、南洋パラオのことを忘れないようにと「北のパラオ＝北原尾(きたはらお)」と命名された経緯があります。

パラオとは、『未来への交流・絆』訪問団を組織し、戦没者慰霊のほか、日本文化の紹介やスポーツ交流を行いました。事前合宿では、アーチェリー、柔道、水泳の強化練習や、地元の小中学校を訪れアーチェリー体験会、地域の皆さんの手作り食材での歓迎会等交流を行いました。また、パラオ子ども国際交流事業としてパラオの子供たちと蔵王町の中学生が相互に訪問し交流しました。今後も人や文化など様々な分野で友好的な交流を図っていきます。



「ざおう・パラオ子ども国際交流事業」で、パラオの子どもたちが町民と交流を図りました



仙台大学で柔道の技術指導を受けました



パラオの子供たちと蔵王町の中学生が相互に訪問し絆を深めています

ホストタウンの取組

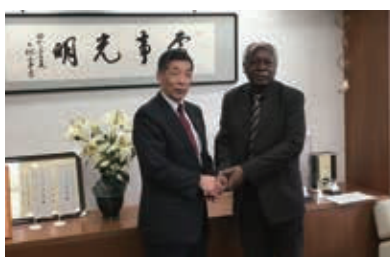
丸森町 × ザンビア

ザンビアとは、平成23年(2011年)2月にJICAの農村振興能力向上プロジェクトで研修生6名を受入れて以来、農業を中心に交流が進められ、研修生と地域住民との交流、小学生や高校生との交流などを行ってきました。また短期技術専門家として丸森町の養蜂・キノコ農家がザンビアを訪問するなど、住民有志によるザンビア訪問が行われてきました。

平成28～30年(2016～2018年)度の3年間は、JICAの補助事業として丸森町の住民自治組織である耕野振興会が実施団体となって技術

協力事業が進められ、ザンビアに農業技術員を派遣して農業・農村の支援を行うとともに、丸森町への研修生の受入を実施してきました。

そのような住民との草の根交流が継続されてきた縁もあり、丸森町はザンビアのホストタウンとなりました。東京2020大会では競技終了後、選手を招いて日本の文化や地域農業体験などを通じて住民と交流を図り、互いの違いを学び、異なる文化や考えを認め合える交流を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため実現しませんでした。今後は、農業を中心に交流を進めることとしています。



ホストタウンについて会談するザンビア大使館ジム・シニエンザ公使参事官と保科郷雄丸森町長



日本人オリンピック本橋麻里氏によるホストタウン事業講演会をオンライン実施



草の根技術協力として行われているザンビアでの短期技術専門家研修の様子

復興ありがとうホストタウンの取組

気仙沼市 × インドネシア

インドネシアと気仙沼市は、基幹産業である水産業などで震災前から深い交流があり、震災時には当時のユドヨノ大統領夫妻が気仙沼を訪問され被災者を激励していただきました。その援助を活用して整備した気仙沼図書館の「ユドヨノ友好子ども館」は、インドネシアからの震災復興支援の象徴となっています。このような縁から気仙沼市はインドネシアを相手国とする「復興ありがとうホストタウン」に登録しました。

水産加工業や漁業でインドネシアから多くの技能実習生を受け入れている本市では、震災前から「気仙沼みなとまつり」で「インドネシアパ

レード」が行われており、令和元年(2019年)のまつりでも、駐日大使をお招きし、多くの技能実習生が華やかな山車や民族衣装でパレードを行い交流をアピール。他にも、技能実習生と市民がお互いの国の料理を一緒に調理・食事をしながら理解を深め合う「食を通じた交流会」や、小中学校の「給食でのインドネシア料理の提供」、インドネシアと気仙沼市の「小学生によるオンライン交流会」なども行い、東京大会に向けた機運醸成と相互理解を深め、今後の末永い交流へつなげています。



気仙沼みなとまつりではインドネシアパレードを実施



華やかな民族衣装のインドネシア人技能実習生たちがまつりを盛り上げました



食を通じた交流で互いの国の文化への理解を深めました

復興ありがとうホストタウンの取組

名取市 × カナダ

名取市は、震災時に地震の被害で使用できなくなった旧市図書館や、津波により壊滅的な被害を受けた閉上地区に、「カナダー東北復興プロジェクト」として、同国の木材を使用した施設の新設・寄贈という大きな支援を受けました。これらの支援に感謝の気持ちを伝えるために、名取市はカナダを相手国とする「復興ありがとうホストタウン」に登録。令和元年(2019年)6月27日から約1ヵ月間、名取市図書館でPRブースを設置し、震災時のカナダからの支援や交

流の状況などを紹介しました。10月には名取市文化会館で「カナダを知る講演会&市民交流会」も開かれ、参加した多くの市民は、カナダに対する理解と感謝の思いを深めました。名取市では東京2020大会後も自転車競技を通じてカナダとの交流を深めていくため、山田司郎名取市長がカナダを訪問。その一環として令和3年(2021年)6月には、マウンテンバイク元日本代表の小林可奈子氏を招き、マウンテンバイク体験会と講演会も開催されました。



ありがとう!カナダフェアでのカナダ人ALTによる絵本の読み聞かせ



カナダを知る講演会&市民交流会での参加者の様子



山田市長とカナダオリンピック・パラリンピック関係者との集合写真

復興ありがとうホストタウンの取組

岩沼市 × 南アフリカ

南アフリカは、東日本大震災の時にいち早く岩沼市に救助隊を派遣してくださいました。その後も仮設住宅や小学校でアフリカの太鼓(ジェンベ)を演奏して被災者を励ましていただくなど、多くのご支援をいただきました。こうしたご縁により岩沼市は平成30年(2018年)11月に南アフリカの「復興ありがとうホストタウン」に登録されました。オリンピックに先立って行われたラグビーワールドカップ2019日本大会では、被災地区の住民が南アフリカのラグ

ビーチームを訪問して手作りの千羽鶴と感謝の手紙を手渡し、オリンピックを控えた令和2年(2020年)1月には菊地啓夫岩沼市長が南アフリカを訪問し復興支援への感謝を伝えました。岩沼市ではその感謝の思いをより多くの市民に広めるため「国旗・国家の学習講座」や「南アフリカ応援フェスティバル」を開催し、「南アフリカ・日本相互応援ポスターコンクール」では南アフリカ・クロフォード校の生徒と岩沼市内の小中学生が互いの国を応援し、交流を深めました。



菊地市長が南アフリカを訪れ、復興支援への感謝とともに、今後の交流について意見交換を行いました



東京2020大会では男子7人制ラグビー南アフリカ代表の試合をオンラインで共同応援



「南アフリカ・日本相互応援ポスターコンクール」では双方の子どもたちが互いの国を応援しました

復興ありがとうホストタウンの取組

東松島市 × デンマーク

デンマークとの交流は、東日本大震災直後の平成23年(2011年)3月30日、駐日デンマーク大使が東松島市を訪れ、寄付金やおもちゃをいただいたことをきっかけに始まりました。平成23年(2011年)6月にはフレデリック皇太子殿下が市内避難所や学校等を慰問・激励いただき、平成29年(2017年)10月に再訪された際には、震災復興 Monument への献花や市内の小学生との交流をしていただきました。そのような経緯を経て、平成29年(2017年)11月にホストタウンに登録。平成30年(2018年)にはフレデリック皇太子殿下への謁見や、デンマークへ地元

漁師を派遣し本市特産物である海苔の養殖について講義を行った他、イベント等でのPRを行いました。平成31年(2019年)にはデンマークから中学生が訪れホームステイを行った他、お互いの特産品を使ったおむすび「せかいむすび」を作り交流を図りました。令和2年(2020年)には本市中学生がデンマークを訪問する予定でしたがコロナ禍により中止。代わりにメッセージビデオを送付し、デンマーク選手団への応援メッセージ動画やPRポスターの作成を行いました。大会後はデンマーク選手団へ活躍をたたえる書簡を大使館あて贈呈しました。



2019年にはデンマークから中学生が訪れ、市内の中学生と交流を図りました



双方の特産品を使ったおむすび「せかいむすび」を作り、互いの文化への理解を深めました



コロナ禍で渡航が中止になった代わりにメッセージビデオで感謝と応援の気持ちを伝えました

復興ありがとうホストタウンの取組

亘理町 × イスラエル

イスラエルの親善大使であるセリア・ダンケルマン氏が理事長を務めるNPO法人セリアの会やイスラエイドは、東日本大震災の発生から今日まで、亘理町への被災者支援に取組んでくれています。NPO法人セリアの会では、今後も継続して町内における被災者支援や心のケアを行っていくとともに、グローバル人材を育成するため、イスラエルや国内外の方々への寄付を原資とした「研修施設」を津波により被災した荒浜地区内に整備しました。亘理町では、そのよ

うな支援に感謝し、これからも同国との絆をより深めていくために「復興ありがとうホストタウン」に登録。これまでの支援に対する感謝の思いを伝えるため、令和2年(2020年)2月には、山田周伸亘理町長が同国を訪問。また、令和3年(2021年)7月には、山田町長が駐日イスラエル大使公邸を訪問し、東京2020大会に出場する選手たちに記念品を贈呈したほか、同国の文化・スポーツ大臣および大使と今後の交流事業についての展望を話し合いました。



2021年7月に駐日イスラエル大使公邸を訪問し、今後の交流について意見交換を行いました



イスラエル人医師が町の保育士を対象に被災した子どもたちの接し方について開催したセミナー



イスラエル・日本国交樹立65周年を記念した式典では町内の小学生が歌を披露しました